

H.C.R. 2013  
H.C.R.セミナー  
報告



2013.9/20

# 福祉施設での感染症の知識と対応

## — 知っておきたい感染症対策のポイント

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者、障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びました。

講師



小坂 健 氏  
東北大学大学院  
歯学研究科  
副研究科長

### 感染症に対する考え方

施設内で感染症が発生すること自体は、基本的にはやむを得ないことです。感染症に限らず介護・福祉施設における様々なリスクをゼロにすることはできません。感染症の発生率をゼロにできない以上、感染症の発生そのものはリスクではないのです。「施設でも感染症は発生しうる」という事実を、入所者、家族、施設職員が共通認識として持っていないことがリスクなのです。また、事実を隠そうとすることも施設運営のリスクになります。したがって、施設で感染症が発生した場合は、まず全員が「感染症の発生はやむを得ない」という共通の認識を持ち、トップの人がリーダーシップをとって、その時点で分かっている事実を公表し、今後の方針を明言することにつきます。

### 感染症全般の対策

感染症は、誰からうつるのか、どこからうつるのかを考えれば、その対策が分かります。人からうつる感染症や、人以外の生き物を介してうつるものもあります。また、環境からうつるものもあります。つまり、何から感染するかが分かれば、その感染経路を遮断することが、最も効果のある対策になります。人からうつるのなら、その人と接触しなければよいのです。ただし、それには限界がありますから、人の何から感染するかまで考えて対応すればよいのです。咳からうつるのならマスクの着用が有効ですし、汚染された手からうつるのなら、手洗いや手袋が有効です。

なお、仮に病原体にさらされても、必ず感染するとは限りませんし、感染しても必ず発病するとは限りません。感染してもその人に抗体があれば発病し

ません。あるいは、感染しても、薬で発病を抑えることもできます。

### 標準予防策

介護施設における感染予防としては、まず、必要なワクチンは打っておくこと。そして、後述の3つの感染経路と対応策を覚えておけば問題ありません。それでも感染してしまう場合については、やむを得ないと考えるべきでしょう。

### 手洗いと消毒剤について

手洗いは30秒かけてするのが望ましいとされています。また手の洗い方も重要です。まず、異物が明らかになっている場合は流水で流してください。異物が付着していない場合は、基本的にアルコール製剤（エタノール）を使用すれば、ほとんどの病原体に効果があります。ただし、ノロウイルスは例外です。ノロウイルスについては、必ず次亜塩素酸を使用してください。次亜塩素酸とは簡単にいうと漂白剤ですから、使用には注意が必要です。

### 病原体によって異なる感染経路

感染経路には大きく分けて次の3つがあります。

- 1) 経気道感染 「空気感染」・「飛沫感染」・「経気道感染」  
予防方法は、マスクの着用が効果的です。
- 2) 経口感染 「食品媒介感染」・「糞口感染」  
予防方法については、手洗いを徹底すること、排泄物を扱う場合は手袋やガウンを着用すること、調理場でHACCP（ハサップ）を徹底することの3点になります。
- 3) 経皮感染 「接触感染」・「性行為感染」  
予防方法は、経口感染と同様、手洗いの徹底および手袋やガウンの着用になります。

### インフルエンザ

施設入所者が罹患する感染症で最も多いのはインフルエンザです。可能な範囲での対策として、ま

ずはワクチンがあります。ワクチンで完璧に予防はできませんが、ある程度の有効性は期待できます。入所者のみならず、職員もワクチン接種はしておいたほうが拡大のリスクは減ります。ほかにも、インフルエンザ対策としては、咳をしている人の隔離や、手洗い、うがい、マスク着用の励行などがあります。口腔ケアも有効です。潜伏期間は平均3日といわれていますが、感染したその日から発病することもあります。発病すると、そこから約1週間はウイルスを排出します。

### 新型インフルエンザ

新型インフルエンザは人から人に高率で感染し、多くの死亡者を出します。普通のインフルエンザとは違い、肺が出血し、呼吸困難となり死亡することが、動物実験の結果で分かっています。新型インフルエンザの流行に備え、介護・福祉施設においてはガイドラインを備えておくといいいでしょう。パニックになると、何をしたらいいかが分からなくなります。そのときに、まずはガイドラインに書いてあることを行う。そのまま通用することはないと思いますが、ガイドラインに書いてあることを応用することは可能です。また、新型インフルエンザや大きな災害が起きたとき、「どのようにして事業を継続するのか」ということまで考えておくと、より安心です。

### ノロウイルス

施設での集団発生率で最も多いのはノロウイルスです。ノロウイルスは9月頃から始まり、11月から翌年の1月にかけてピークを迎えます。感染力が強く、非常に予防が難しいウイルスです。潜伏期間は、通常1日から1日半です。特別な治療法はなく、通常は1日～3日で症状は消えます。しかし、症状が治まってからも、約2週間、人によってはそれ以上の期間はウイルスが排泄されつづけます。したがって、ノロウイルス感染者の排泄物や吐しゃ物を処理する場合は必ず、手袋、ガウン、マスク、メガネで対応してください。消毒する場合は、アルコールは効きませんから使用せず、必ず次亜塩素酸を使用することです。

